



Pure Pacific 純 No.151 パ Sep.2010

純パの会会報『純パ』第151号

2010年9月25日発行

発行：純パの会 〒193-0816 東京都八王子市大楽寺町155-10 吉田方
TEL & FAX.042-652-1066

「パ・リーグ愛」の力を信じたい

吉田 由季子

純パの会員にとつては、あまりにも当たり前のことなので、いまさらだが、考えてみれば「リーグぜんたいを愛する」という発想は、とても稀有で、とてもすごいことではないだろうか。近ごろ、ますますそう思うようになっていく。

根っからのジャイアンツファン（仮にM氏と呼ぶ）に、純パの会の話しをしたことがある。M氏は、「（リーグを応援するなんて）考えたこともない」と言った。それはそうだろう。彼にとつては、愛するチームがなくなるなんて悲哀は、考えもつかないことだろうから。

（それにしても、ジャイアンツファンに純パの会の話しができるほど、世間ではパ・リーグが無視できない存在になってきていることは、喜ばしいなあ）

でも、私はいまでも忘れることができない。2004年、私たちは近鉄バファローズを失い、あるうことかパ・リーグまで失いそうになった。

かろうじて、パ・リーグ消滅を阻止できたのは、別にホリエモンのおかげなんかではな

い。プロ野球の発展にとつては、2リーグ制が必要であるという選手会の主張であり、無謀は許せないというファンの声だったのだと思う。ファンの野球離れを招いては、元も子もないと、経営側に知らしめたのだと思う。

ファンには、そのくらいの力はあると信じていたい。ただし、チームだけを守ろうとしても無理だろう。チーム売却などは、企業の都合で簡単に行われてしまう。でも、リーグまで潰すことはできない。だから、リーグごと愛し、支える。

純パの会に、発足当初からこういった思いがあったかどうかかわからないが、いまやそこにこそ、純パの会の存在意義があると私は考えている。

それにしても、セ・リーグの惨状には心が痛む。上位3チームと下位3チームの、あのゲーム差はなんなのか！ ヤクルト・広島・横浜のファンは、そろそろ「純セの会」の発足を、真剣に考えるべきではないだろうか。まあ、無理かなあ。